

## たまたま卵の知ったかぶり

ひさびさ?に、卵と鶏の話です。まず下の写真からご覧ください。

いちばん左側の白っぽい小さいのは、ウツクケイ鳥骨鶏の卵。重さは40gくらいです。(①)

逆に右端の、やはり白っぽい大きめのは、アイガモの卵。重さは約80gです。(⑤)

それらの間の3つが鶏の卵で、その真ん中が普通の大きさです。重さは60~70g(③)

その右側(右端から2つめ)が、いわばLLサイズ。重さは100gを超えています。(④)

そして左から2つめが「初卵」。生まれたばかりのヒヨコ(初生雛)を昨年の秋から育てて、約半年。はじめて産んでくれた卵です。鳥骨鶏よりちょっと重いくらい。(②)

\*

というわけで、卵をとるための鶏は、半年かかってようやく一人前に成長します。採卵鶏とか卵用鶏とか、あるいはレイヤーなどと呼ばれます。

これに対して、肉を食べるための鶏は、まったく別の品種です。肉用鶏とよばれますが、ブロイラーといったほうが一般的かな。こちらは、なんと初生から2カ月くらいで大きくなって肉にされてしまうのです。ケンタッキーフライドチキンとやらは55日くらいで肉にしていると聞いたこともあります。

焼き鳥屋などで「若鳥」という表示を見ることがありますが、上記のように鳥肉は、ほっといても若鳥しか流通していないのが実態です。

上記の2種類のほかに、卵肉兼用種とよばれる鶏や、いわゆる地鶏と呼ばれる種類もわずかに目にすることもありますが、それについては別の機会に紹介します。

\*

鶏の産卵は季節とつながりがあります。具体的には、春から夏にかけて鶏は卵を産むようになり、逆に秋から冬にかけては産まなくなる傾向があります。こうした季節を鶏たちは、日の長さで感知しているといわれます。

そこで、一般の採卵養鶏場では、夏ごろから夕方と朝方に電灯をつけて、日が短くなったことを鶏たちに気づかせないようにして産卵数を一定に保つ工夫をしています。ただし…

かつてはうちでも実施していた点灯ですが、なんだか自然に反するような気がして今はやっていません。

\*

春にかえったヒヨコ(春ビナ)が成長して産み始めるのは、日が短くなってく秋です。いっぽう秋ビナは、春に初卵をみるわけですから、それがきょうの写真②でもあります。

やはり季節にせかされて、秋ビナのほうが早く生み出す傾向があるようです。ただし、しっかりと母体が成長してから産み始めたほうが後々のためには安心なわけで、春ビナがいいということも聞いたことがある人もいられませんが、そういう理由があります。

秋ビナが何羽か初卵を産むようになったら、いったん絶食させるという飼育方法があります。数日間、エサを止めることで、早すぎる産卵を休止させ、じっくりと体を作ろうとするものです。

ただし、現在のうちの状態ではそんな贅沢なことをやってる余裕はありません。とにかく産卵個数を増やして、皆さんに十分な量をお届けしたいと思っています。

